

ナシの晩霜害対策について

晩霜害に注意！

現在、ナシは低温に弱い生育ステージに入っています。特に、花卉白色期以降幼果期までは、最も低温被害を受けやすくなります（表1）。ここ数日、最低気温が下がっており（図1）、一部ほ場では開花の早い「新高」等で、雌しべの柱頭から胚珠にかけての黒変（被害）が確認されています（図2）。これから5月上旬頃までは、晩霜害に注意しなければならない時期が続きますので、継続的な注意が必要です。

【事前対策】晩霜害対策の準備

①多目的防災網の展張

0.5～1℃の昇温効果があります。但し、冷気が溜まらないよう、網のサイドは開けて冷気を流しましょう。

②燃焼法

石油缶（一斗缶）の半さい缶を用意し、ロックウールや剪定枝チップ等を芯にして灯油等を燃やします（鉄板等の蓋で火力を調整）。煙など周辺環境等には十分注意しましょう。

③防霜ファン

事前に4℃（棚面）で設定し動作確認。外気温が-3℃以下になる場合は燃焼法を併用します。

④地表面管理

ワラマルチ等は土からの放射熱を抑え、霜害を助長します。危険時期を過ぎてから行いましょう。

【事後対策】もし晩霜害を受けてしまったら（まずは自園の被害状況を把握）

①人工受粉の徹底

着果数確保のため、被害を回避した花への人工受粉を徹底しましょう。

②丁寧な摘果

被害が明らかになった時点で、実止まりを確認して丁寧に行いましょう。被害が大きい場合、被害程度の著しいものから摘果し、被害の軽いものは残して可販果実数をできるだけ確保しましょう。

表1 ナシの凍霜害危険温度（30分間遭遇）

蕾が色づいた時	開花盛期	幼果期
-2.2℃	-1.7℃	-1.7℃

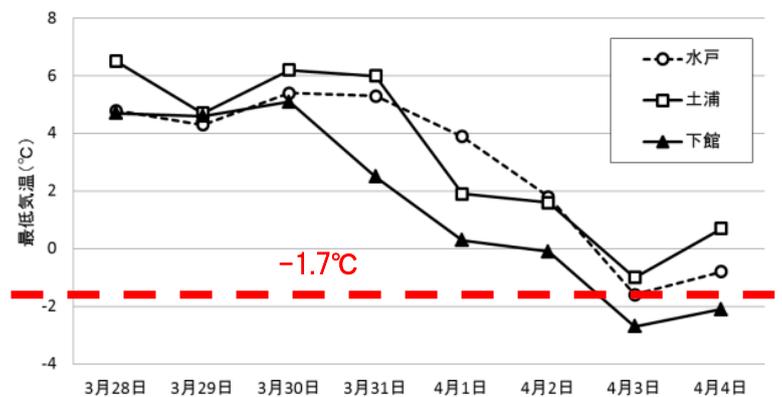


図1 県内3地点アメダスの最低気温の推移 (3/28~4/4)



図2 柱頭から胚珠の黒変（断面図）